様式第１号（第１０条関係）

2024 年度業務実績報告書

提出日 2025　年　1 月　16 日

１．職名・氏名　　助教　　永井　裕子

２．学位　　学位　　修士　、専門分野　　社会福祉学　、授与機関　　日本福祉大学　、
授与年月　　2006 年 3 月

３．教育活動

⑴講義・演習・実験・実習
①ソーシャルワーク実習指導Ⅰ（１単位・２年次）、Ⅱ（１単位・３年次）、ソーシャルワーク実習（４単位・３年次）
②内容・ねらい 「相談援助実習・実習指導ガイドライン」に基づき、社会福祉士として必要な知識、技術、価値および関連知識を再確認し、ソーシャルワーク実習に耐え得る専門的な力量を備えること。実習計画書に基づき現場実習を行い、実習後は実習報告書の作成および実習報告会において報告を行う。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 実習関連科目 個別の実習課題に応じて個別指導および集団指導を行う。本人の学びの目標や課題および実習成果を言語化し、今後の自身のソーシャルワーク実践に展開できるよう添削、個別面談での対話を重視している。
①福祉のまちづくり論（2 単位）１年次
②内容・ねらい 福祉のまちづくりを展開している実践家による講義とグループディスカッションから，地域における生活課題とその改善に向けた社会資源の把握および新たな創造の可能性について理解する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 実際の福祉のまちづくりのプロセスとして地域福祉計画の住民懇談会ワークショップを体験したり、実践者・当事者をゲストとして招聘することで、学生が地域での具体的なまちづくり実践について多面的に学べるよう工夫した。 **ゲストスピーカー5 人**
①SW 演習Ⅱ（２単位）2 年次、３年次
②内容・ねらい いかに理論を実践に移すか、個人に対するソーシャルワークの展開はもとより、集団や地域を対象としたソーシャルワークにくわえて、ケアマネジメントを展開する専門技能を習得する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 地域を基盤としたソーシャルワークを理解するために、事例を用いて実際の地域のイメージをしながら、小グループでディスカッションや事例検討を行った。
①入門演習（２単位）１年次
②内容・ねらい プレゼンテーションやディスカッションの方法を学び、能力を養うために、各自が興味を持つテーマについて、発表の技術や討論の方法などを実践的に学ぶ。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） テキストを用いて輪読し、文献の検索・整理方法、プレゼンテーションやディスカッションの基礎を学んだ。
①福井を学ぶ（２単位）リレー講義　１～３年次

②内容・ねらい
福井県立大学で学び始めた新入生が、福井という地域の特性について幅広く学ぶとともに、福井が有する多様な資源を世界的な視点のなかに位置づけ、地域において本学が果たす役割を理解する。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）
リレー講義のなかで「福井の暮らしと福祉のまちづくり」をテーマとして、福井の家族形態や子育ての現状を中心に、福祉のまちづくりについて事例やデータを用いて講義を行った。

① 現代福祉問題論（２単位）リレー講義　１年次

②内容・ねらい
新入生にとって全体像がまだわからない社会福祉学科における学習内容、とりわけ、２年次以降に学ぶ内容にかかわる話題を、学科のさまざまな科目の担当者の視点から、１回ごとに完結する形態で紹介する。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）
地域共生社会の理念が登場したわが国の社会背景をふまえ、包括的な支援体制や重層的支援体制整備事業の具体的な実践内容を演習を交えて講義した。

① 共生社会論（2 単位）リレー講義　4 年次

② 内容・ねらい
共生社会という「キー概念」を軸にそれぞれの専門を持っている教員による分野ごとの総括をする。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）
地域共生社会の理念が登場したわが国の社会背景をふまえ、包括的な支援体制や重層的支援体制整備事業の具体的な実践内容、ならびに多用なアクターが運営する居場所づくりの実践について講義した。

① 卒業研究（４単位）4 年次

② 内容・ねらい
これまで学んできた社会福祉学の４年間のまとめとして、自ら選んだテーマに沿って自主的に研究を進め、より充実した卒業研究の作成を目指す。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）
前期は文献の輪読を通じて、問いを立てる力を養った。また夏休み中は研究計画書を作成し、研究内容を具体化した。後期は論文執筆に向けたインタビューやフィールドワーク、文献研究を行い、論文を完成させるまで個別ならびにグループ指導を行った。

①ソーシャルワーク特別講義 B（１単位）４年次

②内容・ねらい
池田町に暮らす人びと(高齢者・若者)とのコミュニケーションを通して、人の暮らしと地域との関係性について理解を深め、コミュニティソーシャルワークの端緒とする。また、デザイン思考を取り入れたコミュニティの課題へのアプローチを学ぶ。
フィールドワーク１件

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）
デザイン思考を援用して、池田町での住民の思いや生活をどのようにまちづくりに生かすかについて、フィールドワークやふりかえりを通して考え、住民に対して報告会や報告書としてフィードバックした。
３年次に行ったソーシャルワーク実習をベースとして、人や地域の多面的な理解を促した。

⑵非常勤講師担当科目

①担当科目名（単位数）　開講学校名　福井大学　（2 単位）3 年次

②内容・ねらい　（自由記述）
（１）地域福祉は、地域社会にどのようなアプローチをする福祉なのかを理解する。
（２）多様な地域福祉の課題を取り上げ、これらにいかなる援助が行われているのかを知る。
（３）地域で生活する要援護者の実情をとらえ、生活上の問題点を改善する視点を得る。
（４）地域福祉に関連する公私の機関や組織を知り、さらに住民参加の必要性を理解する。

④本学における業務との関連性　（自由記述）
地域福祉に関する研究の一環として、学生の基礎的知識に合わせた教育プログラムの検討を行うことができた。

４．研究業績

(1)研究業績の公表
①論文 （タイトル、共著者の有無（共著の場合は主たる担当箇所について)、掲載雑誌名　（号数)、掲載（受理）年月日） ボランティア活動参加と動機の付与１ ：福井市で実施したアンケート調査のデータ分析から４　塚本利幸，舟木紳介，橋本直子，永井裕子、福井県立大学論集 = Journal of Fukui Prefectural University / 「福井県立大学論集」編集委員会 編 60 53-80 2024 年 1 月 31 日 ボランティア活動参加と動機の付与２ ：草津市で実施したアンケート調査のデータ分析から３　塚本利幸，舟木紳介，橋本直子，永井裕子福井県立大学論集 = Journal of Fukui Prefectural University / 「福井県立大学論集」編集委員会 編 60 81-108 2024 年 1 月 31 日 ボランティア活動参加と社会問題への関心 ：福井市で実施したアンケート調査のデータ分析から− Relationship between the Way of Interest in Social Problems and Participation in Volunteer Activities：An Analysis of Date from Questionnaire Survey Conducted in Fukui City 塚本利幸，舟木紳介，橋本直子，永井裕子　ふくい地域経済研究 = Fukui regional economies / 福井県立大学地域経済研究所 編 (38) 1-19 2024 年 3 月
②著書 高野和良・小松理佐子編『人口減少時代の生活支援論』(2024.2）共著
③学会報告等 （タイトル、報告学会（大会）名（開催年月日)、共同報告者の有無（共同報告の場合は主たる担当箇所)） 日本地域福祉学会第 38 回大会 2024 年 6 月 16 日「地域共生社会」の実現に向けた社会関係資本の実証的研究ーA 市の住民インタビュー調査からー 永井裕子,塚本利幸,奥西栄介,坂口昌宏,相馬大祐 国際ソーシャルワーク連盟会議 SWSD PANAMA 2024（ポスター発表） 舟木紳介･塚本利幸･橋本直子･永井裕子「Internet and volunteer activity among active senior citizens in Japan」 塚本利幸・舟木紳介・橋本直子・永井裕子「The way of interest in social problems and volunteer activities among citizens in a local city in Japan」
④その他の公表実績
(2)学会活動等
学会でのコメンテーター、司会活動　（担当報告名、担当学会（大会）名（開催年月日)）
学会での役職など　（学会名） 日本地域福祉学会地方部会委員
学会・分科会の開催運営　（担当学会（大会）名（開催年月日)、開催場所） 日本地域福祉学会地方部会企画・運営（年１回程度）
(3)研究会活動等
①その他の研究活動参加　（参加研究会名、調査活動名（期間)）
②　その活動による成果
(4)外部資金・競争的資金獲得実績
文部科学省科学研究費助成事業（基盤研究Ｃ）研究分担者 （研究課題名「過疎地の社会関係資本と「地域共生社会」地元住民と移住者の居住地区構築に向けて）研究代表者：塚本利幸　研究分担者：奥西栄介、坂口昌宏、相馬大祐 公益財団法人日本生命財団高齢社会実践的課題研究助成「「地域共生社会」の実現に向けた社会関係資本の実証的研究（研究代表者：塚本利幸)」（研究分担者）
(5)特許出願

５．地域・社会貢献活動

(1)学外団体
①国・地方公共団体等の委員会・審議会　（それぞれの名称、業務内容、担当期間） 福井市地域共生社会推進代表者会議委員長 福井市都市計画審議会委員 あわら市地域共生社会推進会議委員長 鯖江市福祉のまちづくり審議会委員長 敦賀市地域福祉計画策定委員長 敦賀市重層的支援体制推進会議アドバイザー 坂井市地域福祉計画部会委員
②国・地方公共団体等の調査受託等　（それぞれの名称、業務内容、活動期間）
③　（公益性の強い）NPO･NGO 法人への参加　（それぞれの名称と活動内容、活動期間） 福井市社会福祉協議会理事（2023 年 6 月―現在） 福井市社会福祉協議会地域福祉活動計画推進会議委員長（2024 年度） 社会福祉法人足羽福祉会苦情解決第三者委員（2018 年 3 月―現在） 社会福祉法人和楽園評議員（2019 年度－現在） 有料老人ホームサンライフ小野谷顧問（2020 年 4 月―現在） 足羽福祉会実践研究報告会アドバイザー（2024 年度　事例検討 2 回） 敦賀市重層的支援体制整備事業アドバイザー（2022 年度―現在） 勝山市社会福祉協議会ボランティア運営委員会アドバイザー（2017 年度―現在）
④（兼業規程で業務と見なされる範囲内での）企業等での活動　（企業名、活動内容、活動期間） 株式会社 LAMP（事業内容：コワーキングスペース及びシェアオフィス）代表取締役
⑤大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等 （事業名称及び主催・共催者名、活動内容、活動期間）
⑥その他　（名称、活動場所、活動期間）
(2)大学が主体となっている地域貢献活動等
①公開講座・オープンカレッジの開講　（タイトル名、開催場所、開催日時） ・公開講座「アサーティブトレーニング体験講座：セルフケアのためのコミュニケーション」（zoom）講師：中野満知子氏（前期・後期各 2 回、全 4 回） ・オープンキャンパスでのワークショップ（ゼミ活動紹介）
②社会人・高校生向けの講座　（タイトル名、開催場所、開催日時） ・武生東高校探求授業アドバイザー
③その他　（名称、活動場所、活動期間）
(3)その他（個人の資格で参加している社会活動等）
（活動内容、主たる活動場所、活動期間）

６．大学運営への参画

(1)役職（副学長、部局長、学科長）
（職名、期間）
(2)委員会・チーム活動
（名称、期間） ・看護福祉学部 SIM・ICT 部会メンバー
(3)学内行事への参加
（行事名、参加日時）
(4)その他、自発的活動など
（活動名、活動内容、活動期間）